

柳之御所遺跡出土の重要文化財指定品の修復(令和3年度)

《修理前》

柳之御所遺跡出土の重要文化財について、脆弱な指定品の保管展示に益するため保存修理を行っています。

令和3年度は4点の修復及び安定台の作成を行いました。

1.常滑甕 修理内容:部分復元

主として口縁の欠損部分の充填を中心に、安定した状態が保たれるように復元する。



2.常滑甕 修理内容:接合補強

接合状態が粗いため、破片をすべて解体し、彩色を施し、完形状態に復元する。



3.常滑甕 修理内容:接合補強、安定台の作成



素材の脆弱性を補うために石膏によって充填を施し、安定した状態に復元する。また安定台を作成する。

4.箸 修理内容:接合補強

中央部分から折損している箸の再接合をする。



《作業手順》

対象資料の個々の復元方針に基づいた修復作業前に以下の要領で状態調査を行っている。

- ① 破片を接合し、石膏（接着剤）を補充した状態にあるため、先ずX線デジタル撮影で写真撮影を行い、現状の記録を行う。
- ② 仮接合してある破片はすべて解体した上で、既存の石膏（接着剤）等の除去、及びクリーニングを施す。
- ③ その際、モニターでX線画像をコントラスト調整しながら破片に石膏（接着剤）が被っているかの確認を行い、被っていることを確認した場合は慎重に除去する。

1.常滑甕の修復状況



口縁部を復元

石膏を解体し、再度充填→周囲の色彩よりワントーン落として彩色

基部にも石膏を充填し、安定させる

3.常滑甕の修復状況



縁辺部の引っ掛かる箇所に石膏を充填し、安定した状態とする。

シリコン製の安定台を作成する。
(下はR2年度作成安定台)



支持台(正面)



展示時の状況(側面)

《修理後》

1.常滑甕 修理内容:部分復元



縁辺部を中心に石膏を充填し、単独で安置が可能となった。口縁部の復元と周囲に合わせた色彩・質感の表現を行った。充填箇所については器表面ではワントーン落とし、器内面では判別しやすく彩色している。

2.常滑甕 修理内容:接合補強



修復前の粗い接合状態は解消されている。口縁、口唇部分を周囲と合わせて復元し、ワントーン落として彩色がなされている

3.常滑甕 修理内容:接合補強、安定台の作成



周囲の色彩・質感に合わせた表現を行った。また安定台を作成し、安置の際の安全性が向上するとともに、より立体的な展示となった。

4.箸 修理内容:接合補強

